

編集発行人 小山 長 雄
発行所 社団法人千曲会

長野県上田市常入 信州大学繊維学部
振替長野 6243, 東京 43341
電話上田(2)1215(代表), (2)1218(直通)



ブラジルを視る

荻原 行 雄

ブラジルは面積 8,511,965km², 日本の 22.5倍, 広大な国土は熱帯, 亜熱帯, 温帯圏にまたがっている。人口は約 8,468 万人, 人口密度は, 1 平方キロに約 10 人不足で開発されている地域は国土の僅か 4% に過ぎない。大統領は, アルツール・ダ・コスタ・エ・シルバ元帥, 軍政である。平価を千分の一に切下げ, インフレーションも収まって, 経済も一応安定している。

教育は都市と農村では非常に較差があり, 移住地には小学校はあるが, それ以上は都市の学校に行かなければならない。日系人は教育に熱心で, 就学率は 75%, 中等教育以上 20%, 未就学は 4% で学業成績も優秀で, 小学校から大学まで殆んどトップクラスを占めている。サンパウロ市内で小中高校から師範教育までやっているフェルナデアス・バエスという学校を視察した際白人の女校長は日系人の優秀性を強調していた。

ブラジルは人種の展覧会場で白人, 黄色人, 黒人とその合の子等皮膚の色, 髪の毛顔かたちの違う人々

が集っている。風俗, 習慣, 言語を異にした人達が夫々の知恵と技術を持ちよって親和と協力によって明日の国造りにまい進している姿は尊く感ぜられた。ドイツ, イタリア, ポルトガル, スペイン等の白人達は移住すると部落の中心に真先に教会を建て, 信仰, 社交, 教養の場とするが日本人は真先に学校を立てる。戦前の日本人は出稼的な考え方で, まとまった金ができれば日本に帰るつもりで移住したため, いつも心が日本に向いていて落ちつかず白人達からも非協力的と非難されたが, 戦後は腰を落ちつけて生活するようになり協力的になって日系人に対する評判は非常によい。

奥地に入植した人達も金ができる子供の子供の教育等の関係で都市やその周辺に移動し, 養鶏, 野菜, 果樹等の栽培や商業等に転向する人もある。日系人の大部分は南伯特にサンパウロ市とリオデジャネイロ市及びその周辺に集っている。サンパウロ市は人口 550 万, 世界で最も成長の速い都市といわれ, その近郊を合せると約 700 万に近いそうだ。ブラジル第一の都会で同国最大の経済力をもち約 10 万人の日系人が居住している。市の中心部に近くガルボンブエノ街という日本人町がある。日本品を陳列した商社が軒をつらねている。繁華街のお茶水橋近くを歩くと必ず日本人に出会う。

日本人の教育投資がやっと実をむすんで, 日本的教養と国語であるポルトガル語が自由にできる日系二世が政界経済界, 教育界, 行政機関, 司法機関などの要職について活躍中であり日本の国会議員にあたる連邦議会議員や州議会議員, 市長, 議長, 陸海軍人, 大学教授, 弁護士, 医師等も多く出ている。サンパウロ



構内道路補装完成した学園

市では日系市民の協力無しには何事もできないそうである。二世は市民権を持った純然たる日系ブラジル人であるが, 一世はたとい帰化しても。政治, 教育, スポーツなどには口を出すことができないとのことである。

日系農家のブラジル農業に貢献した点は非常に大きく先ず輸出の 50% を占めるコーヒーについて日系人の占める割合は 8.8%, 綿花は 13.7%, 落花生は 21.2%, ジャガイモ 4.1%, 鶏卵は 43.8% である。

サンパウロ市の台所を一手に引き受けているコチア産業組合の青果部に出品される農産物の大部分は日系農家によって生産されている。今までに日系農家がブラジル

農業に貢献した点は、新作物の導入、未開拓地域の開拓生産技術面の改良などである。

農業以外に日本からの進出企業も多く、商業23社、金融、保険8社、工業32社、漁業3社で、日本のブラジルに対する投資と融資の累計は約2億ドルで日本の海外投資額の28%で、進出企業は66社である。

近年は技術移住者が多くなっているが、ブラジルでは現在労働力は不足していないので単能工ではなく、高度の技術と資本を持って来る人を歓迎している。

ブラジルでは日本のような年功序列や長幼の序等の人間関係があまりやかましくない。企業は職能給を採用し学歴、年齢などは日本ほど重視していない。人口88万ブラジル第四の都市、ドイツ、イタリー系の移住者の多いポートアレグレ市から更に東北に130km行った山間部に人口約11万のカシアス・ド・スールという都市がある。ここに米系のロード・ト・ショウ・ド・ブラジルというサーモスタットを作っている会社に勤務している神奈川県神崎工業高校出身の27才の独身青年は、第1回の技術移住者として渡伯満6年で工場次長をしている。最初は日系の会社に勤務していたが4年間で退職、2年前にこの会社に一工員として入社、技術と勤務成績の優秀性が認められ抜てきされて課長、部長更に次長に累進したものである。

リオデジャネイロにある石川島ブラジル造船所は日系資本90%で、トップマネジメントクラスや高級技術者は日本人が独占しているが伯人の課長もあり、溶接工などは殆んど現地人である。現在2万トンクラスの貨物船を造っている。ここでも日系二世の活躍がめざましい。

サントス街道には、ウイリス、ファイアット、ロールスロイス、トヨタ、フォルクスワーゲン、シムカなど各国の一流自動車メーカーが工場を建て盛んに自動車を製造している。ブラジルの自動車の国産化は重量比で98%まで成長している。市内で一番眼につくのはドイツのフォルクスワーゲンである。

化学工業では一部立遅れをみせているが、その他の工業では、よほど精密のものでない限り国産品で調達できるようになった。ブラジル政府の工業に対する熱の入れかたは大変なものである。

最後に日本人移住地の現状やブラジルの蚕糸業について見聞したことを述べてみよう。

(1) トメアス移住地

アマゾン河口のパラ州の首都ベレムから西南に直線距離にして125km、当地でテコテコと呼ぶセスナ機で約45分の所にあるアカラ川に沿う移住地で胡椒(ピメンタ)の産地で有名である。赤道直下であるが湿気が少なく実

に住みよい所である。この移住は1929年鐘紡社長武藤山治氏と当時のブラジル駐在の田付大使等が日本政府と相談して設立した南米拓殖会社(社長福原八郎氏)が大アマゾン開拓の最初の事業地として開拓の第一歩を入れた歴史的な所である。

開拓初期は経済的の苦しみに加えて、熱帯地方特有のマラリヤに悩まされ、離耕者が続出380戸もあった日本人移住者は98戸までに減少した。その後衛生施設、特効薬も完備され現在日系人472家族、2670名が居住、260万本のピメンタを栽培して年間約6千トンの胡椒を生産しその大部分はアメリカ、ヨーロッパに輸出されている。胡椒は戦後高値が続きトン当たり1000ドルもしたが現在は500ドル位に値下りしているが、世界的な需要の増加もあり、インド、東南アジア諸国の産出額から判断しても永年基幹作物として期待がもてよう。然し往年のようなピメンタブームを期待することは困難で、これからは稲作、蔬菜園芸、牧畜などを取入れた多角経営で進むべきであろう。

移住者もそれぞれ年数に応じ安定した生活を行っている。戦前の移住地から30km離れた所に第二トメアス移住地が事業団により、1000家族受け入れを目標に移住地が設定されている。ここに沢田女史の経営するエリザベスサンダースホームの農園や事業団の試験農場がある。小学校は各移住地に、第一トメアスには中学校、飛行場、産業組合本部、警察署、郡役所、裁判所、波止場等もあり、トメアス郡長は日系人である。郡の人口は約13,000人。面積は5558km²(東京、埼玉を合せたより少し小さい)近き将来、ベレムから首都ブラジリアに通ずるBK14号の国際道路にも接続されるので、待望の陸の孤島から開放され、南伯の経済圏に直結し、将来の発展が約束されている。

(2) バストス

ブラジルの蚕糸業は南伯のサンボロ州のバストス市及びパウルー市を中心とした地域で行なわれている。養蚕戸数は約800戸、内60%は日系農家である。バストスはサンパウロの西北約600km、パウリスタ線のイヤクリ駅から約12kmの地点で、急行バスで約10時間、人口120,000人、高原都市で日本人の作った市であり、市長も市会議長も日本人、人口の約70%は日系人である。ここは日本移民のふるさとで、1968年6月入植40周年記念式典が盛大に行なわれた。市内には、ブラ拓製糸(株)や橋本製糸(有限)があり、ブラジル生糸の70%を生産している。またここは養鶏、ザボン、みかん、洋らんも盛んに栽培されている。

ブラ拓製糸には同窓の谷内業務担当取締役を始めとし

て丸山氏、五味氏が幹部社員として活躍している。私はサンパウロ国際空港まで天野社長等と出迎えに来られた谷内御夫妻の御案内で夜行の急行バスでこの工場を訪問し、昨年と本年送った5名の元気な教え子達の出迎えを受け、丸山氏の案内で工場内を、桐生高専出身の海野工場長の案内で燃糸工場、東京農工大出身の川上原料課長の案内で近郊日養養蚕農家を見学した。

ブラ拓製糸は一段バンドの新型乾燥機を取付中、自動繰糸機の増設も計画され工場も拡張中で活気を呈していた。現在自動繰糸機5セット、年間95万kgの原料繭を繰糸して、年間生糸13万kg、玉糸1.5万kgを生産、生糸の4割を輸出、約3分の1を燃糸工場にまわしている。輸出先は北米合衆国、アルゼンチン、スイス等である。原料繭はキロ当り4.5コント(約450円)養蚕期は9月から翌年6月まで、年間7〜8回であるが少し掃立をつめれば、10回はできる。地質はテラロニアの肥沃な土地で平坦地な所が多く広大な面積を使用して大規模な養蚕経営を行っている。1戸当りの柔園面積は15〜20haで、1ha当りの産繭量は土地や樹令によって差はあるが150〜600kgで、養蚕農家1戸当りの産繭量は2,000kgが普通である。なかには年間10トン以上生産する農家もある。

ここでは柔は挿水で活潑し、柔園の造成は極めて簡単である。あいにく冬の時期で柔葉の発育状況や飼育の実際をみる事ができなかったのは残念であった。

(筆者：おきわら・ゆきお、群馬県立蚕糸高等学校教諭 糸20, S・8)

会員名簿お求め下さい

千曲会員名簿発行については多大のご高配を賜わり厚くお礼申し上げます。お陰様で各支会を通じ多数ご注文をいただき、すでに送本いたしました。残部がありますから未だ購入しない方はすぐお求め下さい。頒布価格は次のとおりです。

B5版 539頁 横組式 卒年別・支会別
1冊 600円(送料含む)

但し千曲会窓口渡しの場合は1冊 500円

1冊は必ず備え会員連絡の手引として活用下さい。なお出来栄等についての言葉や苦言をいただき大変参考になり御礼申し上げます。4月には移動等多く会員名簿追補としてその後の動静を千曲会報5月号に挿入いたしました。

昭和44年5月20日

社団法人 千曲会動静部

退官の御挨拶

荻原清治

満目生気に溢れ、装いを凝して躍動をする好季節となりました。千曲会員の皆様にはお忙しいうちにも御健やかで御活躍のことと、お慶び申上ります。私こと3月末日をもって母校を定年退官することになりました。昭和2年11月奉職以来40有余年の間、大過なく勤めることが出来たのも教職員の皆様、千曲会員各位から暖かい御指導と御支援をいただいたためでありまして、ここに紙上を借りて満腔の感謝を捧げる次第であります。私にとって40年の時は永くもあり、短くも感ぜられ、越し方を想起しますと世の中が大きく移り変わったように、私の身辺にも数々の想い出が走馬燈のようにつけて巡ってくるのであります。昭和19年7月出征途上の海上遭難は私の人生のわかれ目で、若しあの時不運であれば40年の勤めはおろか、地上から消え去っていたので、当時の庶務課長から留守宅へ弔辞をいただいたことは今は笑い話です。その後33年には狭心症をやり一瞬にして冥土へ行くところ、これも通行切符をもらいそこない今日に至っています。人の運命程わからないものはありません。この長い年月も過ぎてしまえば一瞬時のように思われ、まことに樵花一朝の夢の譬えのとおりであります。その後は健康にもめぐまれ長い間を勤め得たのも皆様の御陰であります。この御恩は終生忘れることが出来ないのであります。退官後は上田に住み自分の趣味に生きていきたいと考えています。今後共御交誼の程を御願ひします。

日々のニュースは私達の心を滅入らせることが多く、楽しく心の暖まるようなものは少ない昨今、これから世の中はどうなっていくのか寒心にたえないのであります。教職員並に千曲会員の皆様にはいよいよ御身体をお願ひあらせられ、少しでも明るい世の中となるよう、またマンモス化した吾が愛する千曲会を益々発展させてくださるよう御努力、御活躍の程を切に御祈り致します。長い間の御交誼御指導、ほんとうに有難うございました。重ねて感謝の意を表しまして御礼の御挨拶と致します。

田中茂光氏発明賞授賞さる

信大繊維学部田中茂光博士は発明協会(松下幸之助会長)から発明賞を授賞された。授賞式は4月18日東京発明会館ホールで同協会総裁の常陸宮はじめ木村官房副長官など関係者が出席して開かれた。発明功労者は全国から168人(うち恩賜賞など特別賞は24人)で、田中氏は信光式自動養蚕飼育機の発明で光榮ある発明賞を授与された。お祝い申し上げますとともに益々活躍ご成功を期待します。

(編集部)

ご あ い さ つ

小 泉 清 明

私はこの3月末をもって信大教授を定年退職いたしました。昭和3年研究生活にはいつから満40年、長いようで短く、短いようで長かった大学生活であり、あまり過去に感激をもたないたちの小生も、いささか感慨をおぼえないわけにはゆきません。

この間同窓の皆様からは多大のご交誼にあずかりました。厚くおん礼申しあげます。

長い他郷の生活から帰ってみれば、母校はやはり母校いっぽう多少の非情はあっても、なんとかして校運の近代化進展をと、心をくだきましたが、思うに任せず、中途で学校を去ることは心残りがあります。

今後ともいままで通り水問題の仕事をする所存、ご鞭撻の程を切にお願いいたします。

蒲生俊興先生勲三等叙勲

信州大学名誉教授本会顧問蒲生俊興先生は4月29日の佳節に多年大学教育に特に蚕糸学研究に多大の功績があり勲三等旭日中綬章を賜わり榮譽に輝いた。(編集部)

山崎寿氏日本蚕糸学賞を授賞

上田蚕糸協同組合蚕桑技術研究所長農学博士山崎寿氏(蚕14)は「蚕の軟化病病原体ウイルスとその防除法に関する研究」の成果が認められて蚕糸学会で最高の榮譽蚕糸学賞を授賞された。表彰式は4月3日第39回日本蚕糸学会総会の席上行われ記念講演を行った。山崎博士はこの研究によって先に昭和40年には信毎文化賞を、42年には農林大臣賞を、43年には蚕糸科学功績賞を授賞された。この度の重なる榮譽を衷心から祝福し、ますますご発展をお祈りいたします。(編集部)

船後勇平氏(蚕6回)の叙勲

勲四等瑞宝章を授けられる

昭和4年茨城県に地方農林技師として赴任されて以来昭和30年退職されるまで地方技師、地方技官として本県の蚕糸行政に尽くされた外、地方事務所長として戦後処理に敏腕をふるわれ、在職中従五位勲六等に叙せられた、退職後も各方面に活躍されていたが、今回の生存者叙勲に際しこれ等の功績を再評価され勲四等に叙せられて瑞宝章を授けられ、天皇陛下に賜謁の光榮に浴された。ここに同氏の御榮光に対し心から御祝い申し上げます。

尚同氏は昨年千曲会定期総会に於て長年茨城支会長を歴任され其の功績により社団法人千曲会理事長より表彰された。現在は千葉市稲毛海岸に住居されている。

(茨城支会記)

(社)千曲会の生成

発展への道の提言

——会の近代化方策について——

江 野 村 一 雄

1. われわれの今日を築いた、脳皮質の働きとしての本能—集團欲

われわれの今日を築いた、われわれの脳皮質の多くの働きの内で「古い脳皮質と云われる」(脳皮質の内側にある)部分の働きが、今から16年程前におかった。

その第1の働きは一生まれてすぐ母の乳を求める食欲

その第2の働きは一年頃になると自然に芽生える性欲

その第3の働きは—私達は独りぼっちでは生きたくない、喧嘩をしても、いがみあって

もよい、皆と一緒に生活し

たい集團欲

私達は家庭を作り、(社)千曲会と云う同窓会を形作り、わが企業体、わが社会、わが国、わが民族と云った集團を形成している。これは理屈ではない、われわれの脳皮質が集團欲求と云う本能を自然に持っているからである。

この集團欲求本能が満されるときに、私達は互に心のつながり、或は親しさを覚え、この本能が満されないときに孤独感、或は寂しさを訴える。

われわれは10日位断食しても、気が狂うことはないし性欲を30日位断っても気がふれることはない、しかし集團欲は1日でも満されないと、相当精神がしっかりした人でも完全に発狂状態になる。

この世の中はうるさい、独りぼっちになりたいと云うことで、ソ連国や米国にある孤独実験室に入るものなら完全に人間関係が断たれるから、総ゆる刺戟がなくなり、どんな精神力の強い人でも半日で狂乱状態に墜り、身体の諸機能も大きな影響を受けることが判って来た。

したがって食欲、性欲、集團欲の3つの本能の内が一番大切な、厳しい働きを持っているものは集團欲である。

この集團欲は赤ん坊が生まれてすぐ母の乳を欲しがる食欲と一緒に母の肌に触れる圧迫感、すなわちスキンシップでその集團欲を満足することができるものである。

この集團欲が満されないと、赤ん坊の心に歪みを起しそれが非行性を芽生えさせるから、赤ん坊を育てる上に一番大切なことはお乳よりも、赤ん坊の求めている集團欲を満してやることである。

大人になると言葉、文字によって人間関係を作り、集團を組織し、愛しあい、喧嘩をして、その集團欲を満している。しかし、われわれ大人も赤ん坊と同じく肌の触

れあい、どんなに集団欲がすなおに満たされるものであるかと云うことを、ここに強調するものである。

われわれがその集団欲を満足する社会組織と云えば、

その第1は——わが家庭である

その第2は——わが同窓会、わが企業体である

その第3は——わが社会、わが国家である

私達は、以上3種の集団の内小さくは家庭、次にやや大きく同窓会、企業体において、肌に触れあい、集団欲を満し、大きくは、わが社会、わが国家集団に接触することによりその集団欲を満足させ、私達の生成発展が約束されるものである。

ですから、私達は家庭を離れることが出来ないと同様に同窓会を離れることは、自己の社会生活の大きな部分を放棄し、集団欲のひずみを起させ、自己の生存に大きな障害を起すと云える。

ここにおいて、上田の学舎に学んだ(社)千曲会会員は縁あって、上田の自然の中で、同じ学舎に、同じ街に同じ寮に、同じ宿舎に生活し、語り、学び、肌で接触した者達であるわれわれがその集団欲を満すために、われわれの集団である(社)千曲会を存立させ、その生成発展を計るのは自然の方則に適合した大義を持っている。

この思いに、(社)千曲会全会員がその心をよせ、深い思慮をめぐらして、(社)千曲会の生成発展に一新生面を画してもらいたいものである。

2. (社)千曲会の現況

2, 1 (社)千曲会の経済力の脆弱性とその機能貫遂の問題点

(社)千曲会がその機能を発揮するには、先ずその経済力が確乎としておられなければならないにもかかわらず、会の基本金に殆ど見るべきものを持たないに加えて、会員費の納入が集団欲を意識している会員におんぶされ、集団意識徹底におくれが出て、その収納率のあがらない悩みがある。故に、せがひでも全会員が集団欲に徹する態勢作りに1日も早く成功しなければならない。

2, 2 事業展開とコミュニケーション奉仕の不円滑
同窓会として行なわなければならない多くの事業展開が、経済力の脆弱性により実施されなかったり、タイムリーなコミュニケーションが行なわれない事実の解決突破口として改めて集団欲意識の徹底を期さなければならない。

2, 3 コミュニケーション実践は全会員のニーズに適應させよ

折角、千曲会報が発行されているが、全会員のニーズにマッチしていない感がある、全会員の集団欲を満足する内容に改善すべきである。

2, 4 現本部役員、支会役員の中にはなんとなしに

選任されている人はいないか?

現段階においては、本部役員は定款の定むる処により總會において会員中より選挙されるので、会員不在の選挙がなされていると云っても言い過ぎではない、これでは役員にやる気を起せと云っても無理である。支会役員についても、大体同じようなことが云える。

3. (社)千曲会員の姿貌

学問の発展、技術革新の進展から、必然的に起きてくる産業構造の変革、生活様式の改善から、かつてわが国の輸産産業の大宗であった蚕糸業は、まことに大きな転回をして来た、一方このような事情から蚕糸学、蚕糸業の学者や専門家の養成の変革、加えて、戦後の学制改革によって、(社)千曲会員の各々の持つ専門術は大きくその形を、分野を変革して来た。

又最近のわが国の産業革新と発展は各業種のウエイトを大きく変えた、この事実から、わが会員のわが社会における活動分野を大きく多様化して来た。

昔はわが会員の多くは蚕糸業、蚕糸学或は大きく繊維業、繊維学関係の領域に携っていたものが、最近では、非常に幅広い分野に活躍するようになった。

その主なものを挙げると、土建業、機械工業、化学工業、金融保険業、商業、観光事業、教育界、農業、自由業、官公庁行政官、公共企業機関等々の各方面に夫々の会員の能力をフルに振っている。

したがって会員の中には、わが会のサービスと接触にあき足らず遊離するむきが見られるにいたった。

そこで、全会員が改めてわが会の使命の大義に眼を注ぎ1人1人がその集団欲を満すわが会の態勢の確立に努力しなければならない。

これによって、わが(社)千曲会は革新され発展が期待できる。

4. (社)千曲会の生成発展への道

4, 1 意志決定への全会員参加。

会の目標、方針の決定、事業計画、予算の決定、役員選挙等に関する意志決定に全会員が参画する態勢を確立することが緊要の案件である。

註、決定参加の効果

米国プージャニア州のパジャマ工場における、コックとフレンチの行った集団の意志決定参加実験(1946年頃)

A集団 全員意志決定参加集団の作業成果

全員にやる気がみなぎり成果最良であった。

B集団 指揮者による作業集団

A集団のような状態は得られないが相当の成果は収めた。

C集団 被命令集団

やるが気起らず、成果は不良であった。

具体策 本部役員の選挙は全会員により、各支会役員の選挙は当該支会全会員により選挙を実施する。

選挙法 本部並びに各支会選挙管理委員会において決定する候補者並に立候補者を全会員並に各支会会員が夫々選挙する。この手続き一切は、千曲会報によってとり行なう。したがって選挙費用は殆どかからない。

これにより全会員は決定参加意識に燃え、団体欲を充すと共にわが会の最も強い協力者、支持者となることが期待できる。一方当選者はやる気の最も強い人々で構成され、その業績が期待できる。

加えて本部理事の1人1人に職務分掌化を計り、その職務権限と責任を明確化し、中でも各支会別担当理事の選任を強く期待する。

又各支会長は本部理事になれる選挙制度に改善すべきであり、このためには、現行各支会の再編成を地域制と会員勢力から推進すべきである。

4, 2 定款変更の訴え

4, 2, 1 第1条文を多様化している会員の支持が得られるように改善すべきである。

4, 2, 2 第2条文も第1条文と同様の処置を望む

4, 2, 3 第1, 2条文の各役員は総会において会員中より選挙するとあるのを改め、総会においてと云う文句を抹除する。

4, 2, 4 理事の職務分掌を規定する。

4, 3 千曲会報の内容の改善

4, 3, 1 多様化した会員の集団欲を満足する内容に改め、真に読まれる会報にする。

4, 3, 2 役員選挙並に各支会役員選挙は全面的に会報を活用する。

4, 4 会員の心と体のより所=千曲会館の運営

現在の千曲会館はわが会の財産でなく、国の施設として、わが会から国へ寄附されていると聞く、これではわが会員はその心と体のより所を持たない会と云われても仕方がない。

この対策としてわが会は千曲会館を自由に使用でき、加えて近代的同窓会館として改造すべきである。

4, 4, 1 会議場、懇談会場、宿泊施設の整備に力をいれなければならない。

4, 4, 2 わが会員誰でも、思う時に訪れ、思う事を話し合える、そしてその集団欲を満すことのできる施設を整備しなければいけない。

4, 5 会員のセントラリゼーション

上田の学舎やその内容か、そこにいる人がどんなに変わっても、わが会員は、時に上田の学舎を、会館を訪ねた

い気持ちで一ぱいである。

これに答え、受けいれる態勢が整えられると同窓の気持は晴々しいものがある。

中には今までに懐しい上田の学舎を、千曲会館を訪ね砂をかむ味気なさを感じた会員があるのではなからうかと云うことを心配するものである。したがってこの対策は最緊要事であることを強調したい。

4, 6 適切な事業展開を全会員のために

現在では、わが会は思いだしたように事業は展開するが、タイムリーに会員が欲求する事業が必要な所で展開できるような事業計画の樹立を強く望む。

附 記

私は最近山陽支会の皆様血の通った奉仕を続けるには、先ずわが支会の民主化と組織化を計らなければならぬと考え、これを次ぎ次ぎと実践するにしたがって会員の1人1人の気持を把握することができ、加えて絶大な支持を得た。これを取りまとめ、わが会のあるべき姿を以上のように提言した。みなさんご支持が得られたらこの上の幸せはない。(1969, 4, 19)

(筆者: えのむら・かずお, 紡7, 千曲会理事, 山陽支会長)

田中茂男氏(蚕36回)農学博士授与さる

長野県蚕業試験場病理部長田中茂男氏は、多種の鱗翅目昆虫ウイルス病に関する研究、論文を東京大学農学部教授会に博士号審査を請求してあったが43年12月23日荣誉ある農学博士を授与された。

宮坂昭氏(農1回)農学博士授与さる

農林省農業技術研究所勤務の宮坂昭氏は、織農1回卒業その後東大農学部を卒業し研究に専念しておった。学位論文「水稻の倒伏性に関する研究」によって東京大学から農学博士授与の荣誉を得た。

会費を納めて下さい

本会運営の主な財源である会費を納めて下さい。会費は年額500円です。支会扱いの会費に対してはその30%を支会へ活動費として交付します。千曲会報発行等事業費が1部会員の納入会費によって発行されるのでなく全会員の会費納入率が100%になるよう、なお過年度分会費も納入下され本会活動が活発に出来ますようご協力下さい。なお会費通算40回納入された会員は以降会費は免除となります。

山崎伝鳥取大学教授を悼む

田 口 亮 平



昭和5年4月上田蚕糸専門学校養蚕科に入学した40名の紅顔の少年たちの中に、一人の長身白哲の学生が直ぐ私の眼をとらえた。どこか近づき難い雰囲気をもっていたが、話して見ると朗らかで、実にユーモアたっぷりである。これが後年植物栄養学、土壌学において日本を代表する学者として知られた山崎伝博士と私との最初の出会である。その後の学生生活や永い学究生活のみでなく家庭上のつき合いでも一生を通じて断ち切れない深いえにしに結ばれている二人であることはお互にその当時は知る由もなかった。蚕室の宿直室で泊り込みの養蚕実習のとき一緒であったことがお互に親密の度を加えたが特に専門学校生活の最後の三年生の時に、井上柳悟教授の蚕糸化学を共に専攻したことが、研究上でお互に手をつないだきっかけになった。当時養蚕科は三年生になると動物学の専攻と蚕糸化学の専攻との二組に分れたが、動物をやった者は無試験で中等学校の生物科教員の免許状がもらえたので（このような特典が認められていたのは当時の旧制専門学校でもめずらしかった）クラスの大部分はこの方を志望し、佐藤春太郎教授の動物学の講義をみっちり聞いたようである。蚕糸化学専攻にはそんな特典がなかったためか、ほんの少数の学生しか希望しなかった。井上教授は当時蛋白質化学の世界的権威として知られたドイツのアプデルハルデル博士の高弟であり、アミノ酸研究の第一人者であることは学生の私たちも聞き知っていたので、私は躊躇なく蚕糸化学を専攻し、井上先生の研究室で一年間生物化学分析の指導を受け、蚕糸化学の講義を聴講した。その少数のグループの一人に山崎君がいたのである。

上田を卒業してから私は更に大学に進学し研究者になりたいという希望をもっていたが、封建的な農村の農家の長男に生まれたため、当然長男は家業（私の家は当時蚕種製造業をやっていた）を継ぐ可く運命づけられてい

たので、その希望は縮めていた。家へ入る前に父の指図で他人の飯を食えというので、岐阜県高山蚕業試験場に一時勤めることになった。この試験場に山崎君のお兄さん山崎寿氏（後の長野県蚕業試験場長、現在上田社蚕業研究所長、農博）が若手の技手として勤務しておられた山崎寿さんには私たちが井上研究室で勉強した一年間井上先生の助手として生物化学分析を手をとって指導して下さったが、私たちの卒業直前に高山に赴任されたので私の高山時代の二年間は学生時代に引つづいて同氏から御指導を受ける幸運に恵まれたのである。研究設備の皆無に近い山間の試験場で、文字通り寝食を忘れて研究に打ち込んでおられた若き日の寿博士の生々とした様子は今でも私の脳裏を去らず、その後の私の学究生活はどれほどこれによって激励されたか判らない。山崎伝君は卒業後一時は朝鮮の実業界で雄飛すべく渡鮮された。お兄さんとの御別れに高山まで訪ねて来られた同君を、当時高山線の通っていなかった飛弾街道を自動車ですべて送ったとき、街道に沿って流れていた飛弾川の清流の白い波浪が何故だか記憶の底からよみがえって来る。

その後山崎君は朝鮮を引き上げ、九大（当時九州帝大といった）の農芸化学科に入学された。家業を継ぐべく試験場を退職して家に帰った私も、どうしても父のあとを継ぐ生活に我慢が出来ず、山崎君の後を追うようにして家をとび出し九大の農学科に入学した。博多駅には山崎君の弟さん欣多君（後の富山県農事試験場長、現在山口大学農学部教授、農博）が迎えに出て下さった。同君は松高を経て九大の農芸化学科に在学中であった。取り敢えず山崎君の下宿にころがり込んだ。かくして山崎学者三兄弟と私との永いつき合いが始まったわけである。

九大学生時代の山崎君は極めて勤勉な学生であった。彼は眼を輝かせて大学の講義の面白さを語り、モルモットを使つての彼の卒業論文の進行の期待に胸をふくらませていた。時には二人でハイキングにも出かけて、大学生活をエンジョイした。農芸化学科では最優秀な学生が西ヶ原（現在の農林省農業技術研究所）と専売局（現在の専売公社）に就職したが、彼は前者に迎えられた。

その後戦時色が次第に濃くなり、いつの間にか音信が途絶えた状態が何年かつづいて、その間に第二次大戦となり、やがて終戦を迎えた。山崎君との交友関係が復活した時、君は三重県一身田にあった農林省東海近畿農業試験場の化学部長の重職にあり、私は創立間もない愛媛農林専門学校（現在の愛媛大学農学部）に勤務していた。終戦直後の交通が極めて不便な時で、宿屋に泊ることはほとんど出来なかった。郷里の岐阜県の間山に家族をおいて一人暮らしをしていた私は、松山から岐阜への往復の

途中よく関西線の支線の一身田の駅へ下車して山崎君の実庭をたずね泊めていただいた。駅には当時まだ小学校にあがったばかりの子供さんが兄弟で(姉弟で)迎えに来ていて下さり、私の荷物をもって日の暮れた淋しい田舎道を案内して下さったことを思い出す。

その時代に山崎君は三重県地方に特有な麦の湿害の研究に取り組んでいた。湿害の発生機構は山崎君の専門の土壌学や植物栄養学上の問題であったが、多分に私の専門の植物生理学、生理解剖学の領域にもまたがっていた。そこで私は時々同君の研究室を訪れ、研究の進行する状態の眼のあたり見て、多大の興味をそそられ、同君の質問に対する私なりの答えが幾分は同君の研究進行に役立ったかと思う。この成果は大冊の「畑作物の湿害に関する土壌化学的並びに植物生理学的研究」として発表され山崎君の学位論文となり、昭和29年に「日本農学賞」を授賞された。学位論文としての取りまとめのとき私は同君から相談を受け、草稿を一覧して、その全貌を知り、今まで相互にかけ離れていた土壌学と植物生理学とが山崎君の研究で美事に連絡された一局面が展開されたのを眼のあたり見て、その威大な成果に頭を下げた。「山崎君、これは農学賞受賞論文になるよ」と思わず叫んだが、同君は内心では勿論自信はあったと思うが、まさかという顔をして黙って笑っていた。私の予想は適中した。千曲会の正会員・賛助会員を通じて日本農学賞を受賞したのは山崎君が初めてである。(その後昭和35年に私が受賞し、昭和39年には八木誠政先生と小山長雄教授が共同研究者として同時に受賞されたので、現在では千曲会員では山崎君を含めて4名受賞していることになる)

私が松山から上田の母校に転任して、御令兄の山崎寿博士と高山蚕業試験場以来の交友が復活した、というより山崎さんから一方ならぬ御世話になる機会が極めて多くなった。伝君は私が上田にもどってしばらくしてから新潟県高田市にある農林省北陸農業試験場環境部長に栄転され、二人は距離的には近くなったが、お互にいそがしく公務をもっているため会う機会はそれ以来二、三度しかなかった。一度は山崎君の長女の方が信大教育学部を卒業され御一緒に挨拶に来られた時であった。一身田の小駅の日暮れに私を出迎えたかつてのやさしい童女は窈窕しい才女に生長されているのに、今更時の流れの早いのに驚いた次第である。

山崎君が農林省を停年で退職され、鳥取大学農学部の教授として迎えられたことを知って山崎君のために喜びを禁じ得なかったのは私だけではあるまい。君は今では日本の学会の代表的な一人として広く名前が知れわたっているのです、今後は大学教授として活動されるのを大いに期待していた。今年1月上旬五大学と蚕糸試験場との

共同研究の打合せのため京都の旅先で学校からの電話を受け、君の訃報を知り、茫然として私はなすところを知らなかった。後から聞けば君は今年1月7日正月の休み中にもかかわらず大学の研究室に出勤して、講演のデータを整理中突然心筋梗塞のため倒れ、誰一人見る人のないまま息をひきとったという。奥様をよく存じ上げている私は、奥様にはさぞ御心残りであったことと御同情に耐えず、おなぐさめ申し上げる言葉もない。その日の朝元気で家を出られた君が、その日の中に亡くなられたのはどうしても思えないと奥様が近親の方々に洩らされた後から聞き、私は暗涙をのんだ。

本年4月の日本蚕糸学会大会において御令兄の山崎寿博士が名誉ある日本蚕糸学賞を受賞される。有名な山崎家の学者三兄弟・兄弟三博士が揃ってこの御祝いの席につらなり得ないことになり、そのうちの御一人がこの御受賞の直前に世を去られたことは、周囲の私共としても残念であるし、伝君御自身もさぞ残念に思われることであろう。これも人の世のさだめとして諦めるよりほかない。

山崎伝君、武士が戦場で倒れる如く君は研究室の中でその輝かしい生涯を閉じた。君の死は誠に学音らしい立派な死であった。そして君の燦然たる業績は何時何時までも光芒を失なわないであろう。君の功績は後々までもその道に志す次ぎ次ぎの世代によって語りつかれるでしょう。御子様方も皆立派に成人されていると聞く。願わくは冥せられよ。

(筆者：たぐち・りょうへい、本学部教授、蚕17回)

財団法人上田繊維科学振興会 研究助成希望者募集

第8回振興会助成金交付希望者を次の要領で募集する。

- ①応募者は6月10日までに振興会理事長あて申請書を提出すること。
- ②応募者は個人または協同研究とし、ある程度の成果を得ているものとする。
- ③研究助成金交付は研究助成委員会において選定する。
- ④研究助成金は6月15日に交付する。
- ⑤研究助成をうけたものは助成金の交付決定から1年を経過し、6ヶ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。
- ⑥申請書は本会あて申し込みは送附する。若い層の研究員の応募を希望する。

学園あらかると

学内の道路舗装工事もほとんど完成し、繊維機械学科の前庭にはきれいな池もでき上った。新学期に入って人数の増した構内はいろいろな花も咲き始めて一段と明かるくなり、活気を帯びてきている。

卒業式・大学院学位授与式 3月10日
この2つの式が行なわれた。女子学生の和服姿もまじり、なごやかな風景であった。

入学試験 今年を上田の繊維学部と上田東高校で入学試験が行なわれた。志願者数は繊維農学科123名、繊維工学科235名、繊維工業化学科282名、繊維機械学科258名、繊維化学工学科216名の総計1114名であり、入学者数はそれぞれ29, 50, 41, 46, 36名で総計は202名であった。

入学式など 4月12日に松本で入学式宣誓式があり、同17日には本学部の大学院入学宣誓式が当学部で行なわれた。これに先立って11日からは新学期的の授業が始められている。

学内人事

(44年3月1日発令)

上原 俣助 講師に昇任
佐藤 弘 講師に昇任

(東工大より)

押金 健吾 助手に昇任

(44年3月31日発令)

小泉 清明 教授 退職
荻原 清治 教授 退職
上原 俣助 講師 退職

(44年4月1日)

白井 美明 教授に昇任
武田 晃 教授に昇任
林 貞男 助教授に昇任
桜井 善雄 助教授に昇任
島崎 昭典 助教授

(農林省より)

柳沢 幸男 助手に昇任
武井 隆三 助手に昇任
滝沢 達夫 助手に昇任

小林 勝 助手に昇任
桜井 正幸 助手に昇任
山本満寿夫 助手に昇任

第2回研修センター修了式 3月31日

午後3時から繊維機械学科2階教室において長野高等技術研修センター機械工学科上田コース第2回修了式を行った。修了生はは25名で高校、大学卒で2年以上の工場経験を有し工場から推せんされたものである。

古谷栄蔵先生ご逝去 元上田蚕糸専門学校教授古谷栄蔵先生は3月24日84

才の長寿を全うされ逝去された。古谷先生は繊維化学科初代科長として育ての親である。告別式は3月29日市内国分寺において会田源作教授が葬儀委員長、北条舒正教授副委員長として厳粛に行なわれ、学部教職員、千曲会員等多数焼香された。生前の功により4月18日正四位を賜わった。又ご子息は長男達孝氏東大教官皮膚科専攻を初め東洋レーヨン勤務の末子隆男氏まで皆各界に活躍されている。未亡人古谷長さんは上田市上常田332に居住されています。

荻原清治先生信州大学名誉教授に
本年3月末退官した荻原清治先生は多年の功績により4月1日付信州大学名誉教授に任ぜられた。

昭和43年度卒業生就職先

繊維農学科 (28名)
遠藤 敏夫 信大繊維農学研究科(大学院)
尾崎 忠正 水道機工KK
柏原悦二郎 トヨタカローラ長野KK
河口 豊 九州大学院 蚕学教室
塩川 桑光 小諸市役所
下村 茂 埼玉県蚕業試験場
角田 啓 自営
武田 正男 信大繊維学部教務員(関研究室)
竹中 伸也 荻原インフィルコKK
竹前 道夫 京都府企業局
立岡 康則 帝人KK
千種 貞雄 メナード化粧品KK

千原 洋 高知県大豊蚕業指導所
塚田 明 長野県下伊那蚕業指導所
堤 和敏 福島県蚕業試験場
寺島 恒雄 富山化学工業KK
中沢 文子 信大繊維学部長島研究室
中村 全夫 丸興工業KK蚕糸原料課
花岡 孝雄 片倉工業KK
福島 良和 鍾淵繊維KK結城工場
馬淵 津三 日本毛織KK
宮島 宇智 群馬県勢多農林高等学校
矢島 正晴 九州大学大学院栽培学教室

森山 茂 公衆衛生院
柳原 穰 鍾子醤油KK
山田 明 日本製麻KK
横山 好範 長野上伊那蚕業技術指導所

繊維工学科 (48名)
青柳 吉宏 安曇蚕糸農業協同組合連合会

飯島取二郎 笠原工業KK
磯村 隆夫 大東紡織KK
稲垣 悟郎 日本製麻KK
今井 信昭 石川繊維KK
片岡 明正 呉羽センイKK
梅原 武士 信越電線KK
大井 道夫 牧野繊維KK
大木 茂弘 KK城南製作所
小熊 昭 厚木ナイロン工業KK本社工場

小沢 文弘 近江絹糸紡績KK
大日方嗣昌 野田健毛織KK
柏野 和夫 栄工業KK
金子 康浩 サイボーKK
亀田 泰彦 林テレンプKK
亀之園和明 日本メリヤスKK
杭田 徹 厚木ナイロン工業KK本社工場

久保 賢三 大島繊維工業KK
黒田 静治 信大繊維学部大学院
沢井 保智 計測器工業KK
沢田 和弘 グンゼKK
杉山 雅夫 近泉合成繊維KK
鈴木 正徳 KKジュニャー
関 喜代志 川島紡績KK
関谷 和敬 遠州製作KK

田中 清五	自営(田中織物KK)	清水 健一	研究生, 大安研究室	曾我 浩典	アイシン精機KK
藤 良明	長野紡績KK	鈴木 英雄	三越百貨店	逸町 曉夫	名古屋ゴムKK
富永 和雄	亀井KK	世良 好造	三ツ星ベルトKK	田上 研二	KYC光洋機械工業KK
豊田 隆夫	広田KK	高山 昌也	日本油脂KK	滝沢 勝明	東邦レーヨンKK
中江 正	日本フェルトKK	滝沢 秀敏		武内 克己	富士機工KK
中西 月五	トーネンKK	竹内 勝巳		竹内 健	KK名機製作所
永島 郁夫	福田紡績KK本社工場	田中 広久	日本バイリーンKK	津田 昌三	帝國繊維KK
新美 富幸	愛知紡績KK	土田 義昭		土門 甚作	KK大和電業社
西川 浩	綾羽紡績KK	中曾 偉人	明成化学工業KK	中野 誠二	KKオーエム製作所
八町 敏男	並木ナイロン工業KK	中村 憲雄	学部大学院	中村 峻	KK神津製作所
菱川 信也	片倉工業KK	仲村 安善	学部大学院	中村 敏彦	日産プリンス名古屋販売 KK
藤原 平和	住江織物KK	野々村英雄	化成商品商事KK		
前田雄一郎	KK小賀坂スキー製作所	林 弘道	学部大学院	西沢 六男	倉敷機械KK
道下 明夫	神戸生糸KK和歌山工場	古川 幸孝		新田 達夫	日東電気工業KK
武藤 秀雄	三共生興KK	細木 公平	富山化学KK	林 昌範	河西工業KK
諸岡 英雄	信大繊維学部大学院	松下 俊彦	学部大学院	藤田 昭次	興国人絹バルフKK
山本 功	郡上紡績KK	富林 恒隆	紺藤整染工業KK	藤田 克己	計測器工業KK
山本 敏郎	吉田工業KK黒部工場	宮本 弘作	明成商会	古江敏一郎	日本製麻KK
吉田 亮	興亜紡機KK	森 輝雄	学部大学院	前野 鈞吾	大同毛織KK
吉田 哲郎	大愛メリヤスKK本社	安田 公義	和染工業KK	水本 彰	フタバ産業KK
吉田 隆雄	倉毛紡績KK	山上 憲之	信越ポリマーKK	三井 利宣	興電電工KK
和田 長夫	片倉工業KK	吉田 稔		宮川 喜寿	KK大同機械製作所
和知 孝雄	大阪市立大学家政学部大 学院	横手 信皓	ニチポーKK	森下 昭夫	東洋工業KK
		吉野 正之	日本商事	山浦 富雄	
繊維工業化学科 (46名)		渡辺 幸雄	厚木ナイロン工業KK	山城 修二	日精樹脂工業KK
浅井 隆	レナウン工業KK	繊維機械学科 (44名)		山本 正治	オイレス工業KK
足立 久	繊維学部教務員(遠藤研)	芥川 稔	原電気KK	繊維化学工学科 (30名)	
飯田 紀子	信州大学工学部大学院	青井美佐男	愛知紡績KK	市川 弘	仁丹テルモKK
石井 清志	オーミケンシKK	阿部 新一	日本オイルシール工業K K	見本 年正	大津毛織KK
井上 克彦	学部大学院	稲田 堅朗	KK前田製作所	片桐 直希	東京特殊電線KK
今関 貞夫	日本染色KK	内川 修	帝人KK	木曾 浩	日本織物加工KK
今西 晃久	平仙レースKK	大岡 行彦	大阪アルミニウムKK	小滝 敏則	KKはやしべ
岩橋 弘実	厚木ナイロン工業KK	大須賀勝之	ワシノ機械KK	近藤 淳	蘇東興業KK
上原 義則	東洋クロスKK	大坪 宣次	東洋綿花KK	近藤 憲夫	小賀坂スキー
内山 俱宏		岡野 忠志	日産ディーゼル販売KK	重松 俊男	大学院
榎内 明彦	井倉工業KK	角谷 直樹	KK仁丹テルモ	柴田 憲治	日本合成ゴム
大場 章		加藤 俊剛	豊実工業KK	清水 明夫	信越電線
岡村 忠	東京都立大学大学院	河原 洋	富士ディーゼルKK	鈴木 勝輔	大阪合同
柏原 久雄	伸光製作所	北沢 誠	KK鳥居鉄工所	瀬在 敏行	日本エッフェルター
河合 恵	学部大学院	窪田伊功男	鐘通工業KK	春原 昭男	杉本練染
鎌原 敦子	旭化成工業KK	小出 修一	黒田精工KK	滝沢 達三	森下仁丹
小杉 敏己	興陽製紙KK	小島 久典	呉羽セインKK	竹内 伸夫	大学院
坂井 武文	高原シャツKK	小島 寛	豊和工業KK	竹城 正二	高分子化学工業
阪田 一彦	ダンゼKK	小松 達雄	KK橋本チェーン製作所	塚田 茂男	中央化工機
坂本 成邦		齊藤 直樹	オルガン針KK	中島 達也	正織興業
清水 和夫	浜野繊維工業KK			東 義昭	奈良県工業試験場

藤本 育子 教員
 古川 昌彦 大学院
 前島 秀夫 花咲繊維KK
 政田 勝利 大学院
 丸田 節雄 大学院
 宮崎 照勝 緑川化成工業
 宮沢 勝吉 長野県警察本部
 宮田 清己 KK細川鉄工所
 宮野 安定 高丘工業
 村山 信彦 中外炉工業
 杉本 敏広 KK有沢製作

**昭和43年度信州大学院
 修士課程卒業生就職先
 (22名)**

繊維農学専攻

大池 国介 富山化学工業KK
 北川 幹夫 栗田工業KK
 小林 公幸 繊維学部山口研究室
 長沢 武夫 京都府企業局
 林 昶子

繊維工業化学専攻

石原 暢子 名古屋市工業研究所
 井上 芳彦 大日本インキKK
 張(玉山)正明 三共理化学工業KK
 中山 民弘 日本レイヨンKK
 夏目 駿一 名古屋ゴムKK
 原田 昭夫 高分子化学工業KK
 深津 和彦 興国人絹パルプKK

繊維機械学専攻

塚田 真 信越化学KK
 藤井 信治 神奈川縫糸KK
 三橋 健八 横浜ゴムKK

繊維化学工学専攻

江口 正彦 倉敷繊維加工KK
 北川 健 宇部日東化成KK
 別府 庸夫 千代田化工建設KK
 堀内 巧 帝人KK
 茂木 義博 研究生
 矢ヶ崎孝彦 東京沪器KK
 山内 隆史 東邦化学工業KK

昭和44年度入学試験合格者

繊維農学科 (29名)

稲 昇 神奈川 (金 沢)
 井上 栄二 大 阪 (布 施 工 業)
 大谷喜一郎 神奈川 (厚 木)

大谷 武 長 野 (長 野 工 業)
 大平 孝雄 長 野 (丸 子 実 業)
 小川 清美 長 野 (魚 山 北)
 加藤 正 石 川 (金 沢 桜 丘)
 葉田 正幸 兵 庫 (社)
 小松 憲一 長 野 (松 本 県 ケ 丘)
 小山 富子 長 野 (長 野 西)
 桜井 正人 静 岡 (二 俣)
 笹井寿美枝 長 野 (上 田)
 建部 修 神奈川 (多 摩)
 田尻 博昭 兵 庫 (路 姫 南)
 立岩 剛 長 野 (須 坂)
 田中 正旗 大 阪 (高 津)
 内藤 喜博 長 野 (野 沢 北)
 中川 久文 長 野 (松 本 県 ケ 丘)
 中沢 佳成 長 野 (丸 子 実 業)
 原 紀夫 長 野 (野 沢 北)
 平出 恒雄 大 阪 (山 本)
 広部 善紀 東 京 (千 歳)
 堀 幸代 長 野 (上 田 染 谷 丘)
 松尾 悟 京 都 (鴨 沂)
 丸山 治 長 野 (野 沢 北)
 宮下 周子 長 野 (上 田 染 谷 丘)
 村山 博雄 長 野 (屋 代)
 森本 正一 大 阪 (和 泉 工 業)
 安川 直子 福 岡 (小 倉 西)
 繊維工学科 (50名)
 浅岡 博 新 潟 (高 田)
 朝倉 秀雄 山 口 (柳 井)
 安藤 元一 神奈川 (小 田 原)
 石川 和民 兵 庫 (西 宮)
 一柳 雅行 愛 知 (刈 谷)
 今堀 和博 鹿 児 島 (鶴 丸)
 上野 武男 長 野 (上 田 千 曲)
 浦島 開 滋 賀 (虎 姫)
 岡田 恵子 静 岡 (浜 松 市 立)
 岡田 耕一 長 野 (上 田)
 岡本 公一 京 都 (洛 北)
 小川 明 大 阪 (啓 光 学 園)
 小栗 正一 静 岡 (浜 松 南)
 尾田 増雄 大 阪 (北 野)
 片山 等 兵 庫 (洲 木)
 神谷 春男 愛 知 (刈 谷)
 菊井 薫 大 阪 (生 野)
 国岡 功 鳥 取 (八 頭)
 黒田 勝典 兵 庫 (竜 野)
 小酒井一繁 岐 阜 (岐 阜)
 佐々木孔基 長 野 (阿 南)
 佐瀬健一郎 東 京 (駒 場 東 邦)
 里内 茂徳 大 阪 (今 宮)
 渋谷 文雄 秋 田 (横 手)
 清水 義雄 長 野 (岡 谷 南)
 島本 正人 大 阪 (池 田)
 白石 進 長 野 (屋 代)
 鈴木 源 三 重 (伊 勢)
 鈴木 孝雄 奈 良 (畝 傍)
 瀬島 順一 岡 山 (児 島)
 高橋 英治 埼 玉 (川 口 工 業)
 武信 雄次 鳥 取 (鳥 取 東)
 田中 啓司 京 都 (須 知)
 田中 耕一 長 野 (松 本 深 志)
 丹治 敬夫 大 阪 (富 田 林)
 忠田 良平 愛 知 (瑞 陵)
 辻 太久郎 和 歌 山 (星 林)
 天満屋五郎 長 崎 (長 崎 東)
 橋本 延幸 愛 知 (桜 台)
 林 栄 長 野 (屋 代)
 樋渡 清久 長 野 (長 野)
 古家 一雄 京 都 (柴 野)
 増井 英和 北 海 道 (札 幌 西)
 枅谷 徹 大 阪 (市 岡)
 三ヶ田 剛 大 分 (大 分 舞 鶴)
 水野 高秀 愛 知 (刈 谷)
 矢田 哲雄 山 梨 (甲 府 南)
 山崎 君昭 長 野 (上 田)
 山田 健二 長 野 (野 沢 北)
 吉村 正明 大 阪 (泉 陽)
 繊維工業化学科 (41名)
 青野 茂和 京 都 (綾 部)
 石原 正文 兵 庫 (芦 屋)
 上村 裕昭 兵 庫 (姫 路 西)
 内田 哲雄 熊 本 (八 代)
 江口 保 兵 庫 (鳴 尾)
 江本 泰得 愛 知 (名 古 屋 学 院)
 大岡 博之 大 阪 (清 水 谷)
 大向 勇 大 阪 (大 阪 商 業)
 岡崎 真理 鳥 取 (米 子 東)
 岡本 繁 岡 山 (児 島)
 加藤 雅幸 愛 知 (国 府)
 唐木 隆夫 長 野 (伊 那 北)
 国井 英世 岐 阜 (岐 南 工 業)
 小林 啓子 長 野 (長 野 西)

小山 茂三	重 (松阪工業)	河田 美玄	鳥取 (八頭)	田川 憲一	大阪 (泉陽)
齊藤 悦司	群馬 (太田)	河村 洋二	岐阜 (関)	田畑 豊	京都 (堀川)
酒井 春江	長野 (長野西)	齊藤 親	長野 (屋代)	千葉 忠彰	香川 (九亀)
定山 政秀	大阪 (上宮)	佐藤 安紀	兵庫 (長田)	中島 恩	長野 (上田)
篠原 正子	長野 (長野西)	白石 仰一	新潟 (直江津)	中司 建一	広島 (尾道北)
杉本 恭二	大阪 (西野田工業)	宗 英敏	福岡 (城南)	西村 行雄	長野 (屋代)
生和 道子	鳥取 (米子東)	祖田 雄行	奈良 (一条)	野口 義晴	大阪 (和泉工業)
高宮 久子	富山 (富山女子)	田中 寿幸	兵庫 (加古川東)	野田 俊治	長崎 (長崎東)
田中 正生	東京 (農大第一)	佃 勝	兵庫 (芦屋)	林 幸子	大阪 (寝屋川)
千葉 恭照	北海道 (滝川)	東条 広司	大阪 (清水谷)	平山 陽一	大阪 (東住吉)
土田 明	大阪 (港)	中川 祐一	福井 (藤島)	藤本 敏夫	兵庫 (三木)
中川 晴蔵	愛知 (半田)	中西 幹男	石川 (大聖寺)	松原 邦行	長野 (松本深志)
西尾 一志	愛知 (菊里)	中村 章平	愛知 (桜台)	箕尾 治	和歌山 (日高)
西沢 光子	長野 (松本蟻ヶ崎)	長坂 松二	愛知 (時習館)	矢島 哲夫	長野 (上田)
野込 博樹	香川 (高松第一)	長谷川 明正	長野 (屋代)	柳沢 秀子	長野 (長野西)
広茂 豊	石川 (金沢錦丘)	林 伸男	山口 (山口)	山崎 正司	大阪 (春日丘)
福田 佳子	長野 (松本蟻ヶ崎)	原 正義	長野 (長野吉田)	横井 憲一	長野 (上田)
二松 正	東京 (杉並)	伴 伴一	愛知 (西尾)	横尾 守夫	新潟 (高田)
増田 ひろ子	長野 (上田染谷丘)	平林 裕三	長野 (大町)	吉野 元博	広島 (崇徳)
松村 峰彰	愛知 (西尾)	藤井 正裕	岐阜 (多治見北)		
万羽 昭夫	新潟 (松代)	古川 昭正	愛知 (半田)		
宮沢 孝典	長野 (長野)	堀 幹生	大阪 (生野)		
望月 明広	長野 (屋代)	増田 雅昭	奈良 (畝傍)		
桃木 新一	大阪 (春日丘)	松木 寛	大阪 (三国丘)		
山田 具由	愛知 (時習館)	村上 信行	岡山 (岡山操山)		
山本 良二	愛知 (岡崎)	安田 雅行	石川 (金沢桜丘)		
吉田 和正	愛知 (中村)	吉尾 巧	大阪 (今宮)		
織維機械学科 (46名)		吉田 博一	富山 (砺波)		
会田 真澄	静岡 (沼津東)				
青木 博史	岐阜 (中津)	伊藤 博志	兵庫 (西宮)		
青山 隆	京都 (洛北)	岩田 憲元	愛知 (昭和)		
石元 哲明	富崎 (富島)	加藤 敏男	大阪 (桃山学院)		
市川 信幸	岐阜 (加納)	川崎 利治	石川 (金沢二水)		
市川 豊	長野 (須坂)	木村 宏一郎	兵庫 (姫路東)		
井脇 雅治	大阪 (桃山学院)	上月 康憲	愛知 (千種)		
岩佐 久夫	兵庫 (加古川東)	坂本 悦子	大阪 (天王寺)		
上田 昇	長野 (上田)	坂本 英俊	長野 (野沢北)		
宇田 秀行	愛媛 (川之江)	坂本 充司	群馬 (桐生)		
太田 年昭	愛知 (一宮)	塩崎 良次	長野 (上田)		
大總 正篤	新潟 (糸魚川)	塩沢 正子	長野 (長野西)		
小佐波 純夫	長野 (長野)	鈴木 謙太郎	愛知 (名古屋西)		
海福 進	静岡 (浜松西)	須原 一樹	兵庫 (西宮)		
加藤 隆司	愛知 (岡崎)	高井 裕孝	愛知 (刈谷)		
神谷 祥二	鹿兒島 (甲府)	高橋 建一	長野 (野沢北)		
加茂野 栄治郎	大阪 (河南)	高橋 富男	愛知 (向陽)		
川瀬 洋治	兵庫 (西宮東)	高山 定真	長野 (松本県ヶ丘)		

**昭和44年度信州大学大学院
修士課程入学者 (19名)**

織維農学専攻

遠藤 敏夫 信州大学織維学部

小林 莊一 弘前大学農学部

織維工学専攻

黒田 静治 信州大学織維学部

諸岡 英雄 "

山田 泰宏 "

織維工業化学専攻

井上 克彦 信州大学織維学部

河合 恵 "

中条 隆雄 立命館大学理工学部

戸叶 弘 信州大学織維学部

仲村 安善 "

中村 憲雄 "

林 弘道 "

松下 俊彦 "

森 輝雄 "

織維化学工学専攻

重松 俊男 信州大学織維学部

竹内 伸夫 "

古川 昌彦 "

政田 勝利 "

丸田 節雄 "

さろん

感 想

石倉新十郎

上田蚕糸専門学校創立の頃私が赴任して以来59年経過した今では、当時の職員のおお方は私より年長の方々であったから、ほとんどが故人となり、今なお存命の者は二人だけとなったのである。

直接私の授業を受けた学生で、卒業後社会人となり、社会的に栄達された方々はきわめて多数である。そのなかで千曲会報の新年号紙上で製糸科出身小湊君の業績を知り、うたた感慨無量のものがあるのである。即詠を

教え子がわれに勝る榮譽を得
世に現れしこのうれしきは。
ながらえて世の有様を見極めし
われながら知るかかる喜び。
(筆者：いしくらしんじゆうろう。
元上田蚕専紡織科長)

江野村一雄氏

黄綬褒章受章祝賀会

既に新聞、TV、ラジオ等でお聞きおよびのことと存じますが、この度、多年科学技術の普及奨励に精励されておられた江野村一雄氏(山陽支会々長)が去る11月21日科学技術庁より黄綬褒章を受章されました。

この度の江野村氏の受章を祝して祝賀会が去る12月9日午後6時より岡山市の名園(後楽園)の中にある由緒ある「荒手茶寮」にて山陽支会岡山、倉敷地区在住有志一同16名で江野村氏を迎えて盛大に行なわれました。

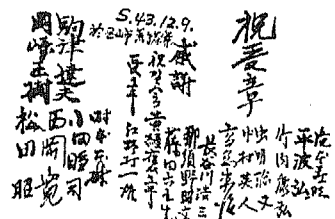
出席者氏名、江野村一雄、藤田六五生、高岡米治、中村英人、虫明聡夫、長谷川浩三、那須野昭文、松田昭、平波弘、竹内康弘、駒津達夫、滝本寿照、岡崎正樹、西岡寛、小田陸、村本茂樹。

始めに祝賀会の幹事をしていただいた那須野氏の挨拶があり、有志一同か

ら記念品として備前焼の花器贈呈、江野村氏の受章までの経過報告および褒章、表彰状の御披露がなされました。引続き宴会にうつりましたが江野村氏の約40年間にわたる数々の苦心談、エピソード、陛下に拜謁賜わった受章式当日の模様などを中心に一品一品吟味された料理で舌づつみをうちながら終始なごやかに会はすすめられた。アルコールのメーターもあがってきたところで初対面の方々もおられたので出席者一同自己紹介を兼ねた近況報告を行ない、最後に出席者一同で記念写真を撮り散会しました。

出席者一同江野村氏をみならって頑張らねばと張りきっておられました。

(竹内記)



欧州の旅からデンマークにて

白 沢 幹 (蚕5)

養鶏飼料研究調査のため欧州視察中の白沢幹氏(蚕5)から竹田編集長に次の便りがあった。

3月12日北極線上を飛んでコペンハーゲンに着きました。天候に恵まれて快適な旅を続けております。欧州に来てよかったですと思います社会感念が大変参考となります。ロンドンはずが淋しいです。36階建の新築が出来て5年も経た今日1室も借り手がなくがらあきという、経済家賃が高くてこれを使う経済力がないというわけ。さすがにミニはずばらしいですヒートルスは出ても学生のデモは乱闘はやらない。ご健康をお祈りします4月上旬に帰ります。

本部だより

常務理事会開催

3月8日常務理事会を開催した出席者は、小林運美、母袋忠右工門、関博夫、北条舒正、竹内善吾、西沢正一、小林尚一、竹田寛、山崎寿、松沢秀二、土屋幾雄、白井要範の12名。議案は、(1)新入学生の入会金、施設利用料については前年に準じて行うこと。(2)蚕糸教育の改善について蚕糸対策委員会の開催は未定。(3)評議員選出について理事会に一任されている。山陽支会では岡山、広島、山口の3ブロック結成されているので各ブロック長の藤田六五生、赤尾文顕、山村洋介の3氏を本会評議員とする。又上小支会は笠原義人氏が支会長となり評議員となった。(4)会費徴収について会費納入率の向上を計り本会事業の運営を活発にする。山陽支会は3ブロック結成し支会の結合良く100%の納入率である。上小支会は地元支会として100%納入率にする方法について常務理事と支会幹事との話し合いを設けること。

理 事 会 開 催

3月29日理事会を開催した、出席者は小林運美理事長、蒲生俊興、野口新太郎、山口定次郎、和田晋、香山清和、山崎寿、江野村一雄、竹内善吾、斉藤義臣、田口玲、滋野文雄、小山長雄、関博夫、松沢秀二、土屋幾雄、白井要範の17名、委任状5名。協議事項は、(1)新入学生の入学金、施設利用料については前年に準じて行なうことに決定した。(2)評議員の選出については常務理事会の原案通り決定(3)本年度重要運動として会費の納入について山陽支会の完全納入実績の発表あり(現在113%納入率)地元上小支会の納入率100%となるよう常務理事と上小支会幹事合同で協議会を開いて100%納入達成を計ることに決定。

常務理事会・上小支会幹事
合同協議会開催

4月24日千曲会館で合同協議会を開催した。出席者は北条舒正、関博夫、竹内善吾、中沢正一、松沢秀二、竹田寛、田中茂光、白井要範、上小支会から宮下力、倉沢秀一、竹内彦保、青島二郎、渡辺寛治、合津清の各氏で、竹内善吾理事司会した。協議事項は

(1)会費の納入について5月中に上小支会員の名簿を作成してこの名簿の配布と共に会費納入を計り地元支会として画期的会費納入率の向上計る。なお千曲会員名簿も未だ購入しない会員には入手を進める。女子会員の会費については昨年女子部会を開いており代表として理事もでているので女子会員に一任する。

(2)母校60周年記念事業については1970年昭和45年が母校開校60周年になるので記念事業をすべきかどうか、学部において記念事業計画がある場合は協力する記念事業は行うべきである。学会記念講演会、等が話合された。

(3)伊藤武男前信州大学長の肖像画を学部長室に掲額することについて伊藤先生は上田蚕糸専門学校最後の校長で又信大学部長、学長であったので学部長室に針塚、井上両校長と並べて掲額するようにしたい。伊藤先生のご意向を聞いて善所することになった。

新入会員懇談会開催

3月10日の卒学を目前にひかえて3日各学科毎に卒業学生の研究成果卒論発表会が催されたので研究発表会のあと千曲会の懇談会を開いた各学科理事から千曲会の内容、各支会、支会長の所在地の一覧により就職後の動静の連絡、会費の納入等について話し合った。

高木三治相談役ご逝去

本会相談役高木三治氏は3月16日ご逝去された。高木三治氏は本会理事として発展にご尽力され現在相談役として協力されていた。告別式は3月19日自宅において行われ学部教職員、千曲会員等多数焼香した。謹んで哀陳を捧

ご冥福を祈る。なお令息春郎氏は信州大学教授本学部繊維機械学科に勤務。

小山よし子さん学部厚生補導係専任千曲会の仕事を長く務め本会の発展に貢献した会員ご存じの小山よしさんは4月から学部厚生補導係として専任することになりました。千曲会の補充は田中公子さんをお願いすることになった。田中さんは昨年会員名簿編集のさいご苦労いただきその後学内松沢研究室につとめていたがこんど本会に勤めることになりました。

西村国男(蚕29)氏長野蚕業試験場長に榮転

長野県蚕業試験場松本支場長の西村国男博士は4月1日付長野県蚕業試験場長に榮転した。益々ご活躍発展を期待する。

中村智義氏(紡28)のロンドン通信

大阪一名古屋→ロンドンと転送されて来た千曲会報No.171号嬉しく入手。全く久しぶりに母校の様子など知って懐かしく感じたりしています。昨年3月に当地に赴任まだ4~5年は当地に勤務致しておる予定です、会員各位の中で当地ご訪問の際はお気軽にお立ち寄り下さい。但し出張が多く英国内各地、大陸方面へひ絶えず出ておりますのでご予約など聞かせて置けば幸いです

(Kanematsu-Gosho Ltd, No.1

Finsbury square, London, E.C.2)

神奈川支会長に松崎滋氏(糸29)選任さる

4月12日神奈川支会総会は箱根共済組合宮ノ下保養所で本部から荻原清治顧問出席して盛大に行なわれた。支会長には松崎滋氏が選任され、幹事長には近藤成敏氏(学糸2)が選出された。

千曲会費完納者

会費通算40回完納した会員は次のとおりです(43.12.16~44.5.19の間) 多年本会向上発展にご協力いただき感謝いたします。なお40回完納者は内規により以降会費免除となります。

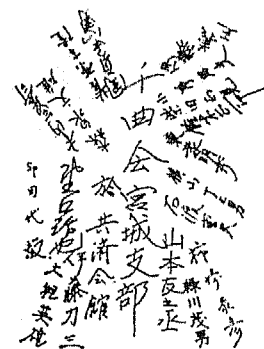
- 猪坂 直一 蚕6 上小
- 安部 和 蚕13 福島

- 竹内 善吾 蚕14 上小
- 中沢利三郎 蚕17 群馬
- 窪田 巖 蚕19 上小
- 大久保孝一 蚕20 安筑
- 笠原 正巳 糸15 上小
- 西田勇三郎 糸16 東京
- 寺崎 喜美 糸23 北奥
- 角田 義弘 紡26 岐阜
- 小泉 郁郎 紡専 京滋
- 横沢 一二 化5 山陽

支会だより

宮城支会開催

暮れの12月14日、仙台市に保養を誇る、仙台共済会館に於て行われた当支会総会は、会員30名中18名の出席で、近年の出席率は、非常に好調である。例によって、会長挨拶、会計報告があり、本年、特に千曲会本部から、同窓会功労者として表彰された。当支会山本顧問の受賞披露、それに、本部総会に出席された同氏の報告等があり、記念写真、寄せ書きを行って、懇親会に入った。飲み物が豊富なため、みんな相当の気嫌になり、散会後は、三々五々、ネオン輝く、夜の仙台に散って行った。



当支会員の構成は、県庁関係が多く、次いで、学校の先生方であり、県内永住者が多いので、連絡がとり易く、集り易い。反面、顔振れが決まり、若年層が入らないので、年と共に集まる年代が上る一方であるのは、何

処も同じと思うが、淋しい感じがする、しかし、年に一度集って、上田にまつわることどもを語って、気炎をあげることは、まことに楽しいことであり、やはり、大いに発展させるべきものである。

新役員 支会長 東家明秀(糸19回)
副会長 倉沢恒夫(蚕28回)石渡重夫(糸20回)幹事 尾崎宗敏(蚕18回)柿崎泰彦(蚕29回)柴田正見(蚕32回)菅原吉隆(糸33回)



千曲会山陽支会

山口県ブロック結成さる

春まだ遠く風尚肌につめたい1月の下旬、山陽支会山口県ブロック結成の初会合が実現致しました。

母校を遠く離れた当山陽の地では卒業生の動静が殆んど分らず1度会合を持ちたいと云う希望は皆あったのだらうと思いますが今度山村、松吉、両先輩の御尽力によりまして山口市の近く湯田温泉に於て山口県ブロック結成会議開催の事となったわけであります。

当日は山陽支会長江野村一雄氏の御出席を頂き母校からの近況等いろいろと御聞きしたり、千曲会の活動についても意見の交換をしたのであります。

そしてアルコールが廻るほど久し振りに童心?に帰り、時の経つのも忘れて話しに花を咲かせたのであります。

当日は私が1番後輩でありましたがそれでも五十の声を聞く様になりました。今後は若い方々が是非出席下さいましてこの会合に新風を吹込んで頂きたいものです。当日の出席(敬称略)

山村洋介(糸22)松吉博隆(蚕25)
井生茂(糸23)中屋正仁(糸26)江山貴昭(糸28) (江山記)

北奥支会総会記

広域支会のため会員が顔合せすることができず、例年岩手県在住者が新年会を開催していました。

本年は当初例年通りの会を開催の予定のところ、本部から関先生がお出で下さることになり急ぎ総会に変更した次第です。

本部から先生がお出でになるのは2回目でありましたが、参加者は岩手県在住者と宮城支会鈴木正一郎氏を含め12名でありました。

2月8日午後2時から趣を変えて、盛岡市八幡宮境内の静かな会場(さくら会館)で開催しました。

和田会長のあいさつに続き関先生から学内動向についてお話があり、蚕糸教育統合の件案は驚いた次第です。

4時頃から、ささやかな懇親会を開き、旧若人に帰って飲み、語らい合い最後に校歌合唱で閉会としました。

当日は前述のように岩手県に取引関係ある鈴木先輩がお忙しい所ご参下され、花をそえて頂いたようで感謝しております。

当日出席の方は次のとおりです。

和田会長(蚕18)石塚(蚕21)
鈴木(蚕22)小林(蚕35)
及川(学蚕1)高木(学蚕4)
伊藤(学蚕5)大塚(学農16)
橋本(蚕別2)小原(化4)
堀(化7)篠原(蚕38)

上小支会総会記

恒例の上小支会総会は2月22日上田市大門町、料亭ささやで開催された。

出席者はますますご壮健な蒲生先生を初め、若い新進の会員、それに本年は長野県より地元塩尻に移転新営なった県蚕業試験場在職の会員諸氏の出席も多く56名と大変盛会であった。

会は宮下力副支会長の司会によって、まず、池内俊郎支会長の挨拶があり、ついで竹内彦保幹事から会務並びに会計報告がなされ、異議なく承認され

た。

つづいて関博夫理事から第29回定期総会で決定した母校火災復興資金の処分、その他協議事項について、又蚕糸教育の改善に伴う母校の近況について説明があり、更に母袋副理事長より果段階での状況、蒲生、猪坂両顧問から夫々所感が述べられた。次に議題の支会運営については主な財源である会費の納入向上を期すことをきめた。

つづいて上小支会役員改選に入り、詮衡委員を挙げ次の通り新役員が選任された。つづいて笠原義人新支会会長が新役員を代表して就任挨拶があり、議事はとどこおりなく終了した。

次に昨年海外視察をなされた、母袋忠右衛門氏からブラジルの蚕糸業について、又、多田忠正氏からヨーロッパ各国の農業事情について、カラー写真をまじえた有益な講演がなされた。

終って懇親会は自己紹介を皮きりに大いに誇り、おおいに盃をかたむけ、宴はいつ果てるとも知らぬ盛会であった。(竹内彦保記)

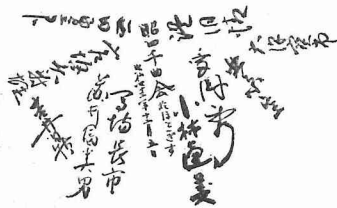
上小支会役員(順不同)

支会長 笠原義人 副支会長 宮下力 倉沢秀一 幹事長 竹内彦保 幹事 青島二郎、塚田光弘、神津昭、田中一行、
評議員 萩原秀治 細川俊雄 茅野功 池田俊郎 横山忠雄 伊藤要次郎 久保忠夫 渡辺寛次 箱山住夫 茅野清三郎 宮本聰一 宇治川喜平 飯島祐介 島田林助 合津清 宮尾三世宰 佐藤秀夫 柳沢市登 広瀬幸男

昭四最寄忘年会

東京千曲会総会で藤井君から発案があり、卒業して満40年、草々の思い出を語る会を中央線中野の「ほととぎす」(黄檗流の普茶料理)で開いた。出席率のよい上洲の杉山、黒沢、岡谷の由井、堀井君が欠席であったが、千葉の大沢宝市、北原基、諏訪の宮坂美寿雄、東京は藤井富美雄、吉井鼎、小

林運美、馬場長市、富岡秀、西田勇三郎の九名参会。夫々屋間は難かしい顔をしている筈の連中ではあるが、今夜は初めから四十年の昔の侃でハメを外した。大学問題では日大の大沢君が矢面におち、千曲会理事長の小林君が所見を述べた。現下の経済情勢に就ては皆一線の猛者揃いの事として尽きるところを知らず。



宮坂君の発起で孫の数と今何をしているかと言うアンケートに対し次々発表する。八人の子福者小林君から、全々夫婦きりの北原君、両養子を決めたら孫もすぐ出来て、全々血縁のない筈なのに孫の顔が自分にソックリだと言う馬場君、奥さんの評判は余りよくないがお孫さんには必ずお土産を買って帰る富岡君ここに時間の経つのを忘れた。

清心料理とは言うものの皆生臭なので、魚類も混ぜた料理は結構いける。朝からのひどい雨もカラリと晴れてスガすがしい夜景を味わい乍ら散会した。



1. 来年4、5月頃各科合同のクラス会を上田で開くこと
 - 1, 出来れば妻君同伴の会を持ちたい
 - 1, 卒業後40年振りのアルバムを作り度い
- 上田の井沢小林兄及東京の小林君に一任する事を決めた。43年12月5日
(西田記)

糸 18 回 生 に 告 ぐ

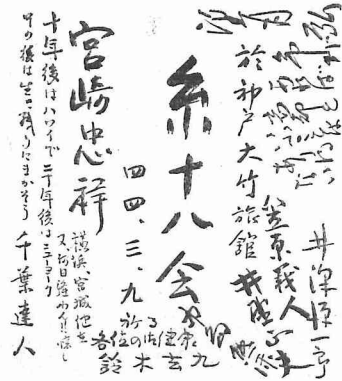
学友は得難いもの、力強いもの、近頃切なるものを感じるのは年のせいだろうか。四国松山市から、宮崎忠祥君が3月9日来神するの報に接し、急ぎよ在神4名の集りを計画した。宮崎君は卒業後、間もなく光を失いしも苦難の道を切り開き、大きく財をなし、地方有力者としてつよく活躍される様子は既に千曲会報(43年4月1日発行196号)荻原教授自筆により、報導称賛された通りで、本人はこのたび直接旧友と語り合うを熱望されしもの、友遠くより来る亦楽しからずやである。



折角の機会でもあり、思いつくまま電話その他で参集を求めた処、東京の井野正夫、横浜の宮城忠夫、上田の笠原義人、宇和島の中島熊保、それに地元神戸の鈴木玄九、望月弘、千葉達人の諸氏が集り卒業以来の待望の大会合となった。地元の和田貞政、信州伊那市の須永茂の両氏は止むなき事情で欠席の通知であり、残念がっていた。こんな喜びを味うならば事の如何を問わず、全員に呼びかければよかったと、後悔やら申訳けないやらで、同賛の諸兄にお詫びするより外はない。

堂々たる風ほうとは云え、年をとった感じは実になく、在学当時の童顔音声そのまま、意気天をつくものあり、限りない喜びであった。宮崎君の奥様が心をこめて作り上げた、沢山の料理(1人当り大型折詰め三重)は予定外のこととて食べきれず、夫々有難く土産に持ち帰ることにしたが、作る方も作る方だし、この重いものをはるばると持って来るものも来るものだと、あきれたり、感心したり、且つ亦感謝

感激もした。因に在神の同級生は、再々顔を合わせることにしているので、何時たりとも飛入り歓迎です。諸兄の健在を心から祈る。(千葉達人 記)



蚕 緑 会 開 く

3月16日(日)、蚕36回卒の長野県内居住者が、同級生田中茂男氏の東京大学から農学博士を授けられるお祝いをするため、信州戸倉温泉にて蚕緑会を開きました。

開宴に先立ち卒業20周年記念事業として、家族アルバムを編成することが議事として上提され、参加者全員を編集委員として、本件を推進することにしました。

続いて中島氏のごあいさつ、田中博士のお話、湯原氏の乾杯の音頭にて宴をはりました。大井秀夫博士田中茂男博士に次いで、第3の博士の出現を期待し、また今後の同級生各位のご発展をお祈りいたし、夕やみ迫る頃別れを惜しみつつ散会しました。(山崎記)



小泉清明先生退官記念事業

小泉清明先生には、本年3月31日をもって信州大学教授を定年退官されました。

先生は昭和3年京都帝国大学農学部農林生物学科をご卒業、同大学助手として研究生活に入られ、その後台北帝国大学講師、助教授を歴任、現地において終戦を迎えられ、同24年岐阜大学(学芸学部)教授として赴任、33年母校(信州大学繊維学部)教授に転任なさいました。その間約40年、動物生理生態学・陸水学などの講義・実験を通じていくたの人材を薫育し、世に送ってこられました。

とくに、母校にあっては評議員その他各種の要職、とくに昭和35年からは繊維学部長に3期就任され、学部の機構改革、学科・研究施設・大学院研究科の設立、建物の新営などにその敏腕をふるわれました。いっぽう、日本応用動物昆虫学会、日本昆虫学会、日本蚕糸学会、日本生態学会、日本陸水学会等の学会理事・評議員あるいは支部長、IBP—PF・木曾三川河口資源調査団等研究グループの代表としてご尽力、また国際学術会議のため海外出張をされたり、日本学術会議会員として幅広く活躍のほか、地方にあっては岐阜県・長野県其自然保護、とくに最近は諏訪湖の汚染問題にとりくまれるなど大学・学界を初め地域社会発展のため偉大なる貢献をされてまいりました。

このたび、このような先生がご退官なされるにあたり私たちが有志は、先生の多年のご功績を顕彰し、感謝の敬意を表わしたいと考え、よりより相談の結果、下記の記念事業をおこなうことにいたしました。

つきましては、同窓各位におかれましても、この趣旨にご賛同下され、ご協力たまわりますよう、心からお願ひ申し上げます。

小泉清明先生退官記念事業会

発起人代表 田 口 亮 平
小 山 長 雄

記

1. 記念事業
内容は実行委員会にお委せください。
2. 拠金要領
金 額 1口(500円)以上
払込期日 昭和44年7月末日
払 込 先 上田市常入500(〒386)
信州大学繊維学部応用動物学教室内
小清明先生退官記念事業会
(振替口座 長野 12551番)
払込方法 なるべく振替口座をご利用ください

荻原先生退官記念品募金

謹啓 時下益々ご清適の段賀しあげます。さて荻原清治先生には昭和44年3月末日停年の故をもって信州大学教授をご退官されました。先生には昭和2年上田蚕糸専門学校に奉職され、以来42年有余の長きに亘り、ほとんど先生の全生涯を学生の教育指導と研究とに専念されました。また幹部の兵籍にあられて比島作戦に参画し、戦傷を受けられたにもかかわらず繭糸の構成に関する先人未踏の研究を完成されたのであります。この間学制改革、学科の編成替にあたり中心的教官として尽力され、繊維工学科主任は勿論信州大学補導協議会委員、図書館長その他の要職を歴任し、特に卒業生の就職は親身もおよばぬ手とり足とりの斡旋にあたられ、卒業生一同深く感銘しているところであります。

学外にあっては日本学術会議選挙管理委員に懇望されインドネシア学生からも慕い寄られるなど先生のお人柄とご功績とは永遠に吾々卒業生の脳裏にきざみついております。また数期に亘る千曲会理事長として多岐に亘る事業を完成され、たとえば楓荘からはいつも先生のお声が聞えるようであります。このような数々のご功勞に対し、些かの謝意を表すため吾等知友、教え子達、相ばかり下記のような記念事業を計画いたしました。時節柄諸事ご多端の折誠に恐縮とは存じますが、以上の趣旨にご賛同賜わり、吾々の計画にご協力いただけますようひとえに御願ひ申し上げます。

荻原清治先生退官記念品募金会

発起人代表 白 井 美 明
記

1. 記念事業 贈呈方法は実行委員会に一任。
1. 切 昭和44年7月末日
1. 拠出金額 1口(500円)以上
1. 払込方法 なるべく振替口座東京43341をご利用下さい(荻原先生退官記念品代と明記して下さい)

信大教科書

自然科学書

工学書協会特約店
株式会社 西沢書店
上田原町TEL 0024

社団法人 千曲会 評 議 員 氏 名 (186名) ○印支会長

- | | | | |
|---------------|---------------|-------------|--------------|
| ○勝野 貞哉 ○和田 敦 | 山本友之丞 ○栗原 章 | 羽場 清人 高橋 国清 | 母袋 健一 金田 久 |
| ○原田 種亀 岸 勝弥 | 目崎 武美 ○前沢 康雄 | 佐々木喜久 中沢 賢 | 鈴木 基泰 知野 光伸 |
| 影山 剛 ○高橋 汎一 | ○大沢宝市 ○武田 一行 | 宮坂 啓集 小林 修三 | 間宮 元康 柴田 彰三 |
| 荒木 喬 藤田 四郎 | 奥村 忠治 ○秋山 利夫 | 山浦 和男 風間 武彦 | 小泉 幸道 青木 勝義 |
| ○長谷川敏文 ○鶴田 定平 | 笹本 保雄 ○大山 融 | 佐藤 雅久 今井甲子男 | 柳沢千代茂 ○小山田 峻 |
| 倉沢一二三 ○阿部 丈夫 | 田口 亮平 箱山 住夫 | 田島 信雄 萩原 秀治 | 秋山 昭夫 松本 昇 |
| 池田 俊郎 茅野 功 | ○鷹野 貞雄 ○永井 真吉 | 三石 賢 清水 滉 | 矢彦沢清允 林 利金 |
| 西村 国男 ○市瀬 武寿 | ○鈴木 正悟 横沢 正雄 | 和田 良央 小笠原貞次 | 白井 汪芳 林 貞男 |
| ○宮沢 岬 細川 豊 | 清水 良一 ○林 邦治 | 小松 好人 黒沢 一義 | 高沢 弘明 小川原晋興 |
| 浅野 清志 ○上原 貞徳 | ○工藤 見吉 ○窪田 盛 | 荒井 肇 平川 清一 | 長谷 実 漆戸 邦夫 |
| ○深迫 明 ○中島 茂 | ○中山 吉二 松尾 卓見 | 夏目 駿一 豊島 剛 | 青山 尚生 富士谷 武 |
| 古平 福紀 田中 一行 | 接井 善雄 押金 健吾 | 小林 俊一 中塚 吟造 | 上田 満男 西沢 正俊 |
| 久根下栄一 市川 丈夫 | 飯島 祐介 中島 章夫 | 古市 義和 戸田 正行 | 角田 定 中沢 孝夫 |
| 大井 章次 武井 隆三 | 蒲生 卓磨 泉 和一 | 岡田 純 柳沢 幸男 | 美斉津利正 関口 定 |
| 小林 勝 田村 博一 | 富山 昌臣 青森 宗二 | 橋本久之助 金井 節 | 石川 光也 長谷川悟夫 |
| ○黒岩 覚 ○荒井 猛 | 高橋 英 三谷 勝 | 大谷 隼人 森泉 次夫 | |
| ○山田 良人 ○笠原 義人 | 山崎 管録 松野 輝彦 | | |
| 小泉 辰雄 ○新野 武雄 | 池田 正三 ○東家 明秀 | | |
| 尾沢 敏男 山浦 克己 | 羽生 英尚 ○小松 忠孝 | | |
| ○森剛 夫 藤田六五生 | ○松崎 滋 丸田 節男 | | |
| 阿部 信夫 松山仁一郎 | 松尾 五郎 山村 洋介 | | |
| 赤尾 文顕 羽重 次郎 | 青沼 茂 金光 昭明 | | |
| 清水弥智夫 小畑 忠富 | ○岩本 賢次 近藤 成敏 | | |
| 平林 潔 南沢 健三 | 島崎 昭典 宮坂 昭彦 | | |
| 牧野徳太郎 宮崎 尚政 | 小林 昭紀 鈴木 薫 | | |
| ○森 力雄 田中 実 | ○多川 澄平 松永 省治 | | |
| 飯島 貞雄 百瀬 文雄 | 桐本他吉男 藤井富美男 | | |
| ○川久保 元 榎本 健治 | 遠藤 恒久 安井 健一 | | |
| 星田 馨 北沢 茂樹 | 伊藤 二男 浅治製袋男 | | |
| 宮下 力 倉島 紀富 | 田中 宗一 笠原 義昭 | | |
| 川合 久午 山浦 幸二 | 柳沢 市登 佐藤 憲三 | | |

編 集 後 記

みずずかる信濃路も漸く新緑したたる、時節となりました。ベテラン小山長雄先生の後を引き受けて、今後2ヶ年間に、私達が会報の編集に当ることになりました。前任者のように立派な会報を皆様にお届け出来るかどうか甚だ疑問の念を抱くところではありますが、熱意と努力を傾けて編集に当って参りたいと考えております。どうぞ皆様のご支援と原稿のご送付とをお願い致します。

(竹田記)

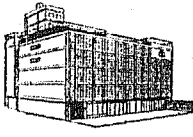
編集委員 竹田 寛、篠原 昭、竹内 善吾
 中沢 賢、平林 潔、小笠原貞次
 山本万寿夫、白井 汪芳、小林 俊一
 白井 要範

特許・実用新案・意匠・商標
 出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4
 堤 第一ビル 4階
 東 京 (591) 0764・0765

弁 理 士 浜 三
 弁 護 士 中 助
 千曲会員 島 猪
 千曲会員 長 谷 銅
 治 実



皆様の百貨店

上田・中央 **とほてりや**